



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター **N a r a I D S C**
（奈良県保健環境研究センター内）



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 12 月） **NEW**
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 24 年 12 月） **NEW**
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎



（調査週）平成 25 年 第 1 週 12 月 31 日（月）～1 月 6 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	4.89	↓	↓	↓	→
2	インフルエンザ	1.27	↑↑	↑↑	↑	↑↑
3	水痘	0.71	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
4	RS ウイルス感染症	0.69	→～↓	↓	→	↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.31	↓	↓	→	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は126例で、平成24年第52週報告の218例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④RSウイルス感染症、⑤突発性発しんの順。インフルエンザの報告数（43例）は、ほぼ倍増。突発性発しんの報告数（2例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（60例）は、ほぼ半減。水痘の報告数（9例）も、ほぼ半減。RSウイルス感染症の報告数（5例）は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；3例、郡山HC管内；40例の計43例、定点当たりの報告数が1.59となり、流行開始

の指標値：1を上回った。眼科定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内ともなかったが、基幹定点からの報告が、郡山HC管内よりマイコプラズマ肺炎が6例（1～4歳；2例、5～9歳；3例、10～14歳；1例）あった。

（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、183例から128例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎の順であった。感染性胃腸炎は、95例から71例と減少し、インフルエンザは、15例から23例と増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県南部地区概況 報告数（H24第52週→H25第1週）は43例→66例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（37例→40例）、②RSウイルス感染症（1例→8例）、③インフルエンザ（1例→4例）、④A群溶連菌咽頭炎（0例→4例）、⑤流行性耳下腺炎（0例→4例）、⑥水痘（3例→3例）、⑦突発性発疹（0例→3例）であった。

（柳生 記）

【全数把握対象感染症発生状況（平成24年12月）】

平成24年12月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

12月報告患者数（平成25年1月9日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2類	結核	9	13		4		2	28
3類	細菌性赤痢				1			1
3類	腸管出血性大腸菌感染症				1			1
5類	レジオネラ症		1					1
5類	後天性免疫不全症候群		1	1				2
5類	髄膜炎菌性髄膜炎			1				1

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 24 年 12 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、12月におけるウイルス検出状況は以下のとおりです。

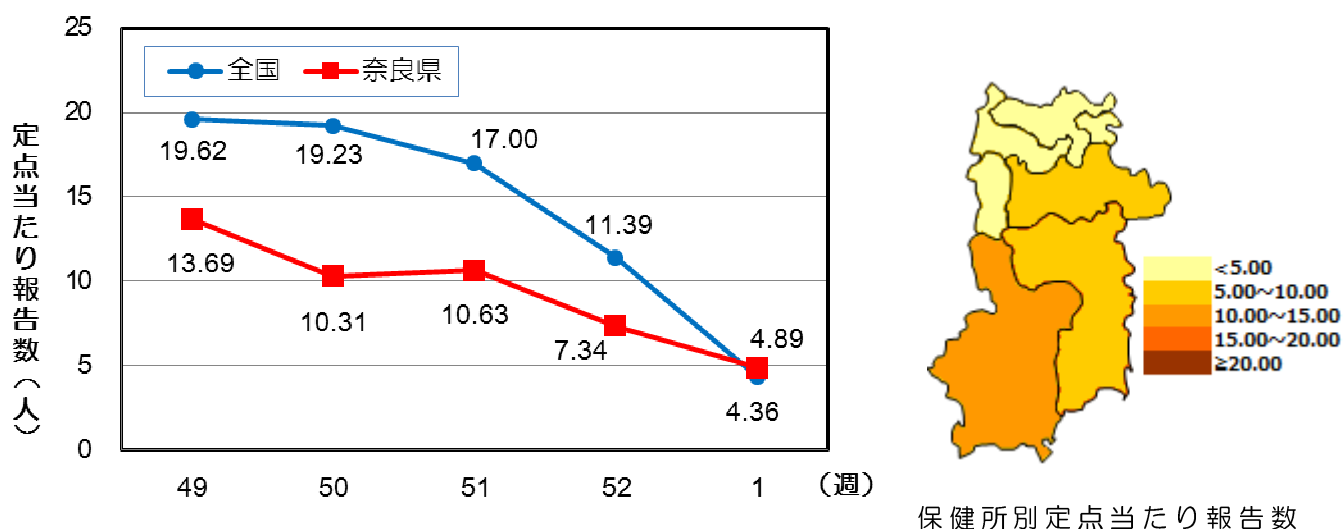
患者数（平成 24 年 12 月検出分）

検出病原体	北和	中和	南和	臨床診断名
エコー	7	1		感染性胃腸炎(1)
ノロ	GⅡ	2	12	感染性胃腸炎(14)
アデノ	2	3		感染性胃腸炎(3)

（保健環境研究センター 記）

《流行感染症情報：感染性胃腸炎》

第 1 週の奈良県全体における定点あたり報告数は 4.89（報告数 171）と、前週に比べ減少しました。全国値も 4.36 と、前週より減少しました。



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm